

官民共創の新しいまちづくり協議会 議事概要

会議名	第12回伊那北駅周辺再生WG			
開催日	2025年10月28日(火)			
開催時間	開会	18:30	閉会	19:20
開催場所	伊那市役所5階 502会議室			
出席者				
協議会・WGメンバー	田畠和輝氏、高橋明星氏、笠井成樹氏、須永次郎氏			
事務局・職員	建設部 橋爪部長、柴田参事 建設部都市整備課 原課長、辰ノ口課長補佐			
関係者	—			
欠席者	北原俊文氏、田尻主査			
議事	1. 伊那北駅周辺再生WG「第5回対話・つながり・実現の場」の振り返りと今後の予定			

議事項目	概要	次のステップ
1. 伊那北駅周辺再生WG「第5回対話・つながり・実現の場」の振り返りと今後の予定		
・伊那北駅周辺再生WG「第5回対話・つながり・実現の場」の振り返りと今後の予定	<p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/23のワークショップは概ね好評で、成果品も非常に面白いものが出来上がった。 ・地元の人の積極的な参加が印象的で、これまでの説明会とは異なる関係性づくりが重要だと実感した。 ・継続した地元の人が参加しやすい取組が必要で、今後も引き続き協力をお願いしたい。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那北駅周辺整備に民意を反映させるにはどうしたらよいか、暗中模索の状態が続く中で、今回のワークショップで1つの成果が得られたと感じている。 ・伊那北駅前の開発においても、伊那北駅周辺整備が1つの大きな機運である。 ・「駅前広場の活用」は地域や市民から意見を募ることができるとできるテーマであり、今回のワークショップは人々の心を繋ぐことができた有意義な場であった。 ・参加者の笑顔がワークショップや17とりどり祭の成功を物語っている。 ・17とりどり祭は地元の人も多く参加し、「今回規模の歩行者天国は生まれて初めてだった」、「やはり駅前広場の活用について考えていかなければならぬ」などの意見が挙がった。 	

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・今回のイベントを一過性のもので終わらせることなく、今後に繋げることが重要である。・今後もイベント参加者に当事者意識を持ってもらうためにも、今回のような小さな成功事例を積み重ねていくことが必要である。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・伊那北駅周辺再生 WG の「対話・つながり・実現の場」を年度内に 2 回開催することを目標としたい。・次回は 9/23 のワークショップで検討したソフト面の整理、深堀を行い、その次の回で駅前広場の配置をグループワークにより 2 案程度に絞り込みたい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・9/23 のワークショップで製作した各グループのアイデアは大きな成果である一方で、地元商店街の人も広場活用をほぼ経験していないことが分かった。・今回のアイデアをすぐに形にしても「作ったのに使われなかった」、「イメージと違った」などの残念な結果に陥る可能性が高く、「お金をかけずに広場を使う」という実験的な取組が必要を感じる。・取組を通じて商店主・生活者・学生など全ての層がフィールドに出て「今あるものをどう使いたいか」、「使ってみた効果はどうか」などを体感した上で、ワークショップでのアイデアをブラッシュアップすることが必要ではないか。・17とりどり祭では、鉄道事業者とタクシー事業者の協力の下、駅前広場に交通規制をかけ、広々としたフィールドを体感することができた。・一方で、高校生中心の企画に留まり、商業的な活用まで試すことができなかつたことは残念である。・来年は地元主導のマルシェや地元住民による出店など、商業的要素を取り入れた実験が必要と考える。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前広場全面では規模が大きすぎるため、駅前広場の一角に 1 ヶ月程度仮設テントを設置し、そこで何をしたいかを考えもらうなど、規模を絞り込んだ形で実施してはどうか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・「何を建てるか」という議論の前に、具体的な活動を行うべきである。フォーラムの開催や地元の人と高校生が交流する場の創出を提案することで、ワークショップの参加者にも協力してもらえるのではないか。
--	--

	<p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄道事業者と協議し、一時的に駐輪場を別の場所へ移設、駅前広場内の一角落をイベントスペースとして確保することも一案である。・来年の17とりどり祭に合わせて一定期間仮設テントを設置し、定期的な利用や活用方法を考えてもらうことで、今後のテントの規模や必要性の検討、ニーズの検証に繋げてはどうか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・大型テントのレンタルも高額である。地元区から借りてはどうか。参加意識の醸成にも繋がる。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・地元区に協力してもらうことは非常に良いことである。地元区の名称が書かれたテントであればなお料に感じられるであろう。・一方で、長期間設置することに抵抗を感じる可能性もある。悪天候時に撤去する際、地元区に協力してもらわなければならない問題も生じる。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・ロータリーのモニュメントや日時計を移設・撤去することは可能か。・跡地をステージとして活用することで、ロータリーに交通規制をかけずとも、数十人がステージに向かって座ができるスペースを確保でき、演奏などの発表の場として活用できるのではないか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・日時計の撤去は可能であるが、以前は池があり、その縁をそのまま利用しているため、撤去しても縁は残る。縁の上にステージを組むことは可能である。・将来的にステージを常設するとしても、日常的に使いやすいデザインで、屋根があり、音響設備を設置できる構造が好ましいと考える。・高さも抑え、日常的にはベンチを置くなどで、待合や雨よけとしても使える複合的な要素を持たせるのが良いのではないか。・17とりどり祭のステージを見て、広場全体の広さやステージの場所について、様々な考え方があると感じた。広場整備を考えるにあたり、ロータリーを含めた程度の広さが必要だと実感した。昨年と比べ、通路が十分に確保され、人の往来がしやすくなっていた。	
--	---	--

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・イベント参加者が毎回同じとは限らないため、9/23のワークショップの成果内容をシェア、引き継ぎながら、「1ヶ月程度設置した仮設テントを使って何をしたいか」という社会実験の趣旨が十分伝わるよう以し、異なるアイデアを出しやすい状況を作る必要がある。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・社会実験の事例を見ると、テント設置は、一時的なイベント使用と、常設による日常使用の2種類に分かれています。イベント色が強いと普段は活用されない状態になってしまいます。イベント使用と日常使用を組合せることが必要。他事例なども参考、一般の人にも分かりやすく共有すべきである。・定期的なマーケット開催など、似た内容を複数開催しても地元の人にとっては魅力がない。特別感と日常が重なり合った、繰り返し訪れたくなる工夫が必要である。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・イベント色が強すぎると一過性のものになってしまうため、日常使用を意識したい。ただし、日常使用だけでは面白みがなくなってしまうため、イベント使用と日常使用の融合が必要と考える。・9/23のワークショップではソフト面について考えてもらった。次回以降、ソフト面と日常使用、そしてハード面を意識して進めていきたい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・冬期使用や維持管理の問題はあるが、テント、テーブル、椅子、ベンチ、人工芝といったソフトとハードの中間（可動物）の要素があると利用の幅が広がるのではないか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・冬にできること、暖かい時期にできることなど、季節を問わず、それぞれの時期でできることを考えても良い。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークショップの中で、グループごとに季節の縛りを付けて考えてもらうのも有効。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・実証実験の時期は寒い時期になることが想定される。寒い時期、暖かい時期それぞれの企画が出てくることを期待する。
--	---

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・伊那北駅の駅舎を借りることはできないか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄道事業者に確認が必要である。駅構内の場所にもよると思われる。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・本当の意味での「日常化」は、商業をしたい人が、空き店舗などを活用し出店する流れを作ることであるが、この流れを作るのは伊那北駅周辺再生 WG ではなく地域の人であり、地域の人に主体的に動いてもらう仕組みづくりが必要である。・駅前広場での取組において、今後、駅前の常設店舗に繋がる動線を考える必要も出てくる。・商業にチャレンジしたい人が出てくるのであれば、プレハブなどの常設店舗を駅前広場の一角に設置し、将来的な空き店舗活用に結び付けられれば、駅前広場の活用をまちの賑わいに繋げができるのではないか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・キッチンカーの出店許可や出店料の取り決めを市で決めるとは可能か。また、曜日限定や一定期間まとめて許可を取ることは可能か。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・可能である。現在もキッチンカーが許可を取って営業している。過去には「毎週金曜日」や「半年間」といった形で許可申請が出された例もある。・次回の対話・つながり・実現の場では、実証実験を行う前提として、まずは他の広場活用事例を踏まえて伊那北駅周辺で何をするかの具体的な企画を詰めていきたい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・駅周辺の空き店舗の所有者、貸出の意向などを可視化できないか。・期間限定で出店したいなどの夢はあっても、誰に相談すれば良いか分からない人も多い。具体的な取っかかりが欲しい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・所有者と直接話をしてみないと引き出せない具体的な情報もある。駅周辺のエリアだけでも情報収集することが非常に大事である。・調査を外部事業者に委託する方法もあるが、市が直接行うことで信用度が高くなる。
--	--

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・市職員だけでは人員不足であることは理解しているが、駅周辺だけでも市が直接、空き店舗所有者の意向を調査すると活用が進むのではないか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・調査を行う場合、直接所有者へ確認、もしくはアンケートの実施が考えられる。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・所有者に空き店舗活用の可能性を感じ、対話・つながり・実現の場に気楽に参加してもらうことが理想である。・耐震改修など手を加えて使ってもらえるのであれば、地域貢献の観点からも貸してもよいと感じる所有者もいるかもしれない。利用希望者と所有者の情報格差をどのように埋めるかが課題である。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・リノベーションによるまちづくりを実践している団体が採用している仕組みとして、事業者の事業プレゼンに対し、貸しても良いという所有者が手を挙げるマッチングの仕組みがあるが、所有者にプレゼンの場に出てきてもらうことが非常に苦労しているようである。・仕組みを構築するためには信頼関係が必要。・事業を始めた人のニーズとエリアや物件の規模が合わない場合もある。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・プレゼン形式となると、事業が成立するかのシビアな判断になってしまう。・地域や地元の人のためならばという気持ちが醸成され、貸してくれるのが理想である。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・1つの空き店舗を WG メンバーや高校生などが DIY で修繕し、貸し出すなど、活用成功事例を見せることが一番効果的だと感じる。修繕費などは安い価格に抑え、賃借料も安く設定することで持続可能な仕組みとするのが良いと考える。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・対話・つながり・実現の場で機運を高め、まちの熱量を上げていき、1つの成功事例をつくることで取組に賛同する所有者が増えていくかもしれない。	
--	--	--

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・天気の良い日に、弁当を持参し、外で食事をするなど、地域の雰囲気を直に感じてもらってからワークショップを行うのも良いのではないか。・次回も司会進行を高校生にやってもらえると良い。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・次回は寒い時期のため、駅周辺のエリアを一回りしてからワークショップを行うのも面白い。・高校生にも声をかけてみる。これからの時期、高校3年生は受験も控えており、参加が難しくなるかもしれないが、秋の実施も視野に入れるか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・冬に実施することで、駅前で手軽、かつ暖かい軽食を出してほしいなどのニーズも出てくる可能性があるため、冬の実施も選択肢として残しておくべきである。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・9/23 ワークショップの参加者アンケートでは、以前伊那北駅構内にあった蕎麦屋の復活を前向きに考えているという意見もあった。蕎麦に関するミッションで活動している地域おこし協力隊員もおり、ニーズによっては、連携した取組なども期待できるのではないか。・次回の開催は高校生や地元の人の参加が見込める日を念頭に日程調整を行う。・17とりどり祭の熱量が残っているうちに開催する方が良いと思われる。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・高校生の試験が終わり、少し暖かくなる3月に実施するのはどうか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・3月の実施であれば、春休みの時期が動きやすいと考える。平日でも集まつてもらえる可能性もある。	次回の「対話・つながり・実現の場」開催に向けた日程調整及び内容検討
--	---	-----------------------------------